

【今週の注目疾患】

《RSウイルス感染症》

2024年第13週に県内の小児科定点医療機関から報告されたRSウイルス感染症の定点当たり報告数は0.37(人)となり、3週連続で増加した(図1)。保健所管内別では、船橋市保健所管内が定点当たり報告数1.55(人)と最も多く、次いで海匝が1.00(人)と続いた。県内16保健所中11保健所管内の小児科定点医療機関から患者報告があった(図2)。

2024年第1週～第13週に県内の小児科定点医療機関から報告のあったRSウイルス感染症の患者数は268例であった。年齢群別では0歳が78例(29%)、1歳が52例(19%)であり、0歳及び1歳で患者報告の約半数を占めた。また、5～9歳は49例(18%)であり、前年と比較して5歳以上の占める割合が増加している(図3)。

図1：2020年～2024年第13週の県内のRSウイルス感染症の定点当たり報告数

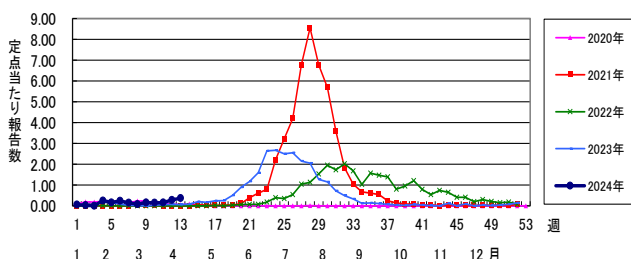


図2：直近5週間の保健所別RSウイルス感染症の定点当たり報告数

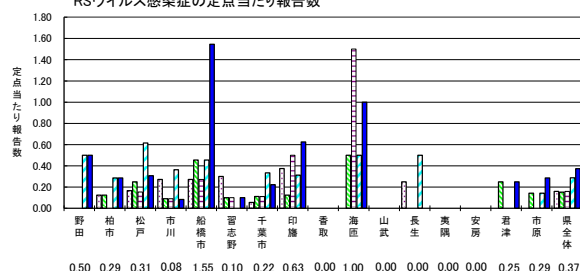
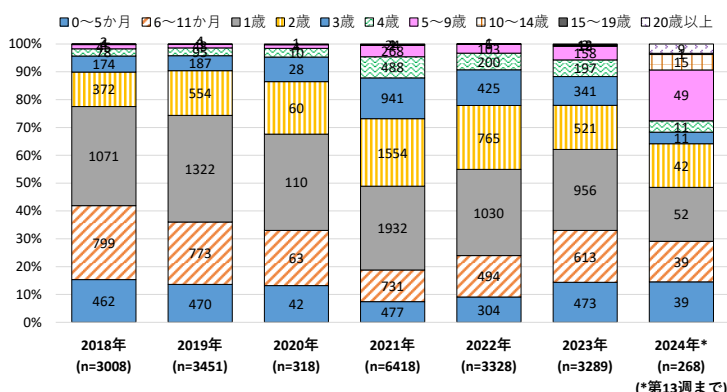


図3：2018年～2024年第13週に県内の小児科定点医療機関から報告のあったRSウイルス感染症患者の年齢群別報告数・割合



前週(第12週)時点において、周辺都県(東京都、埼玉県、神奈川県)や他地域でも定点当たり報告数が増加しており、全国的にも患者報告数の増加が認められている¹⁾。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行開始以降、RSウイルス感染症は時期外れの流行の発生や患者年齢群の変化等、挙動が従来と異なっており²⁾、今後の発生動向には十分気を配る必要がある。

RSウイルス感染症は、RSウイルス(respiratory syncytial virus)を病原体とする、乳幼児に多く認められる急性呼吸器感染症である。初感染の場合、発熱、鼻汁などの上気道症状が出現し、うち約20～30%で気管支炎や肺炎などの下気道症状が出現するとされる。乳幼児における肺炎の約50%、細気管支炎の約50～90%がRSウイルスによるとされる。また、早産の新生児や早産で出生後6か月以内の乳児、月齢24か月以下で免疫不全を伴う、あるいは血流異常を伴う先天性心疾患や肺の基礎疾患を有する乳幼児、あるいはダウン症候群の児は重症化しやすい傾向がある。さらに、慢性呼吸器疾患等の基礎疾患を有する高齢者におけるRSウイルス感染症では、肺炎の合併が認

められることも明らかになっている。ただし、年長の児や成人における再感染例では、重症となることは少ない³⁾。

国内では、60歳以上を対象とするRSウイルスの感染症の予防を目的としたワクチンがある⁴⁾。また、早産児、気管支肺異形成症や先天性心疾患等を持つハイリスク児を対象に、RSウイルス感染の重症化予防のため、パリビズマブの投与が行われている⁵⁾。2024年3月26日には、パリビズマブの適応拡大により、肺低形成、気道狭窄、先天性食道閉鎖症、先天代謝異常症、神経筋疾患を有する24か月齢以下の小児への投与が可能となった⁵⁾。パリビズマブは、地域におけるRSウイルス感染症の発生動向に合わせて投与開始時期と投与期間・回数等を決めることが推奨されており、日本小児科学会千葉地方会ホームページにおいて県内のRSウイルス感染症の流行状況を鑑みた投与時期の提案を定期的に行っている⁶⁾。その他、妊婦への能動免疫による新生児及び乳児におけるRSウイルスを原因とする下気道疾患の予防を目的としたワクチンが製造販売承認を取得しており、販売に向けた準備が行われている⁷⁾。

主な感染経路は、患者の咳やくしゃみなどによる飛沫感染と、ウイルスの付着した手指や物品(ドアノブ、手すり、スイッチ、机、椅子、おもちゃ、コップ等)を触ったりなめたりすることによる接触感染である。家庭内にハイリスク者(乳幼児、慢性呼吸器疾患等の基礎疾患を有する高齢者)がいる場合、罹患により重症となる可能性があるため、飛沫感染対策(マスク着用や咳エチケット)、接触感染対策(手洗いや手指衛生、日常的に触れるおもちゃや手すりなどのこまめなアルコールや塩素系の消毒剤による消毒)といった基本的な感染予防策が重要である^{3, 4)}。

■引用・参考

1) 国立感染症研究所: IDWR速報データ2024年第12週

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/data/12592-idwr-sokuhou-data-j-2412.html>

2) 一般社団法人日本感染症学会: 新型コロナウイルス感染症パンデミック下における感染症の現況

https://www.kansensho.or.jp/ref/2107_covid-19.html

3) 国立感染症研究所: IDWR 2023年第28号<注目すべき感染症>ヘルパンギーナ・RSウイルス感染症

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rs-virus-m/rs-virus-idwrc.html>

4) 厚生労働省: RSウイルス感染症Q&A(令和6年1月15日改訂)

https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html

5) 「本邦におけるパリビズマブ追加適応症に対する使用の手引き」作成ワーキンググループ: 本邦における肺低形成、気道狭窄、先天性食道閉鎖症、先天代謝異常症および神経筋疾患に対するパリビズマブ使用の手引き

https://www.jspid.jp/wp-content/uploads/2024/03/5rare_dis_20240326.pdf

6) 日本小児科学会千葉地方会: 千葉県におけるパリビズマブ投与について

<https://www.m.chiba-u.jp/dept/pediatrics/chiba/>

7) 日本小児科学会予防接種・感染症対策委員会: RSウイルス母子免疫ワクチンに関する考え方

https://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=559